

武蔵野スタートカリキュラム

(小学校入門期指導資料)

はじめに

小学校生活に不適應を起し、小学校入学後に、集団行動がとれない、授業中座ってられない、話を聞かない、新たな人間関係を構築することができないなどの児童が存在していると言われています。こうした状況が継続することにより、学級集団内にいじめを生み出したり、不登校に陥ったりすることも考えられます。本市でも、小学校生活への適応や望ましい集団づくりが課題の一つとなっています。

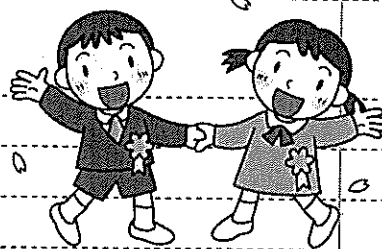
幼児期と児童期の教育との接続を円滑に進めることは、いわゆる「小1プロブレム」の発生を防止することにつながります。そこで、小学校へ入学した児童が、家庭や幼稚園・保育園・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自分のよさを発揮し合い、楽しい学校生活を創り出していくためにスタートカリキュラムを研究開発しました。

本スタートカリキュラムを活用して、各小学校が自校の特色を生かしながら、望ましい学級集団づくりに向け、取り組んでいただけるようお願いいたします。

※小1プロブレム…入学したばかりの1年生で、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数ヶ月継続すること。(文部科学省)

目次

1. 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の特徴	1 ページ
2. 幼児教育から小学校教育へと円滑に接続するための視点	1 ページ
3. 入学後の主な活動例	2 ページ
4. 活動例の具体的な内容	
① じこしょうかい だいさくせん	3 ページ
② たのしく あそぼう	5 ページ
③ がっこうたんけんをしよう	7 ページ
④ かかりを きめよう	9 ページ
⑤ おんがくりズムあそびで なかよくなろう	11 ページ
⑥ わけを はなそう	13 ページ
⑦ ふわふわことばと ちくちくことば	15 ページ
⑧ がっきゅうおたのしみかいをしよう	17 ページ
5. 幼児教育から小学校教育への接続を円滑にするために	19 ページ



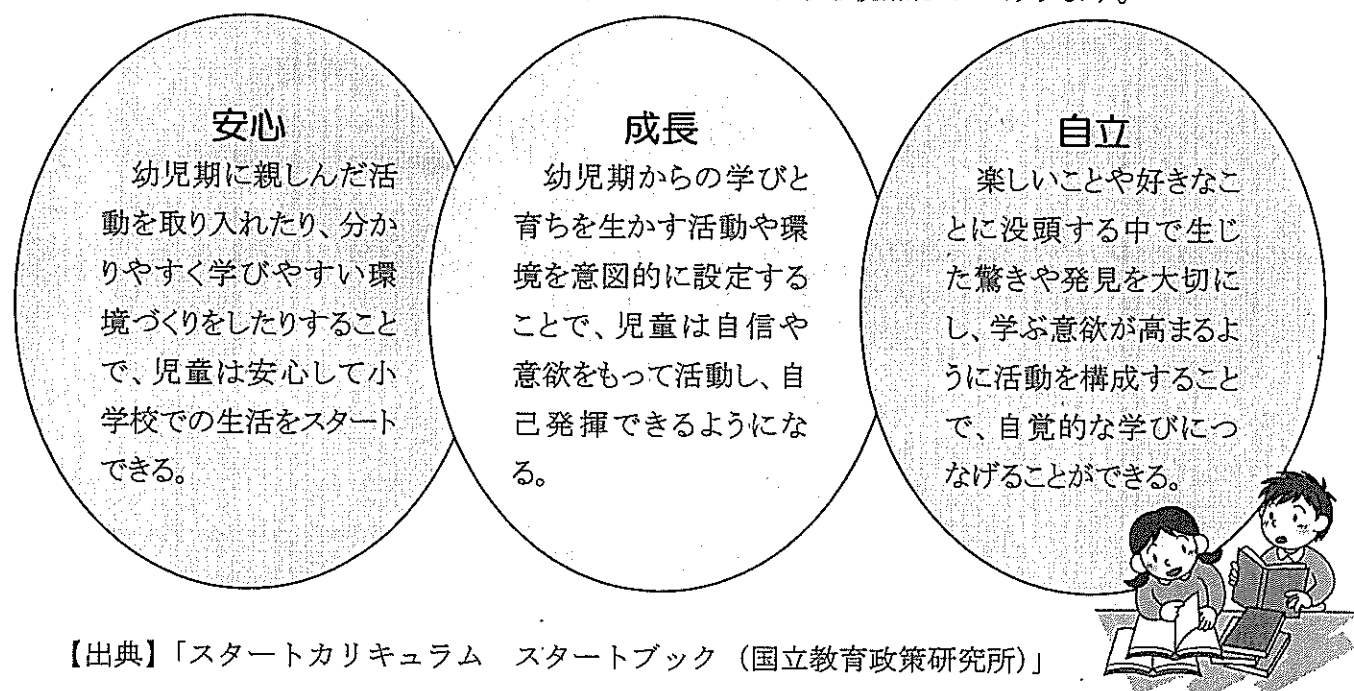
1. 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の特徴

幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の学習面や生活面の特徴について比較します。

	幼稚園・保育園・認定こども園	比較の視点	小学校
学習面	○楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学ぶ。	学びの自覚	○学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学ぶ。
	○遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学ぶ。	系統的なカリキュラムへの対応	○各教科等の学習内容について授業を通して学ぶ。
	○5領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）を総合的に学んでいく教育課程等を編成している。	教材の違い	○各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程を編成している。
	○身の回りの「人・もの・こと」を教材にする。		○教科書を主たる教材として使用する。
生活面	○総合的に学んでいくために環境を工夫する。		○系統的に学ぶために学習環境を工夫する。
	○日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わる。	コミュニケーションの方法	○主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。
	○子どもの生活リズムに合わせて1日が流れる。	一日の過ごし方の変化	○時間割に沿って1日が流れる。

2. 幼児教育から小学校教育へと円滑に接続するための視点

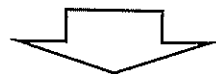
スタートカリキュラムを編成・実施する際のポイントとなる視点は3つあります。



3. 入学後の主な活動例

ここでは、スタートカリキュラムを実施する時期を1学期として、活動例を示します。丸数字の活動例は、具体的な内容を指導事例として次ページより記載しています。

時期 視点	安心	成長	自立
【4月 前半】	①自己紹介大作戦<生活> (友達の顔と名前を覚えて仲良くなる。自分を知ってもらう。) ○6年生との関わり (分からないことや困ったことを教えてくれたり、助けてくれたりする上級生がいることを知る。)	②楽しく遊ぼう<体育> (いろいろな運動遊びを行い、体を動かす楽しさや集団で遊ぶ心地よさを味わう。)	○あいさつの仕方<生活等> (あいさつの仕方を知り、体験することで、他者との関わりを広げる。)
【4月 後半】	○1年生を迎える会 ○縦割り班活動 <特別活動> (2～6年生の温かい歓迎の気持ちを受け、学校生活の仲間入りをした喜びを味わう。)	③学校探検をしよう<生活> (学校施設の様子や先生など学校生活を支えている人々について知る。) ④係を決めよう<学級活動> (学級の役に立ち、学校生活を気持ちよく過ごせるような係を決める。)	○上手な聞き方<生活等> (上手な話の聞き方を知り、友達との望ましい人間関係づくりを考える。)
【5月】	⑤音楽リズム遊びで仲良くなろう<音楽> (音楽リズム遊びを通し、友達と共感し合う楽しさを味わう。) ○2年生との交流<生活> (1学年上の児童と交流することで、学校への慣れや親しみを深める。)	⑥わけを話そう<国語> (気持ちを話した後に、そのわけを話すことができる。)	○○○小の生活<学級活動> (学校のきまりを知り、守ろうとする。)
【6月】	○体を使った昔遊び<生活> (ルールを理解し、みんなで仲良く遊ぶ。)	○地域の保育園児とのきょうだい学級遊び<生活> (小さい子との関わりを通して、自己の成長を感じる。) ○「日光がんばってね」のメダルづくり<生活等> (6年生にお世話になっている感謝の思いを伝える。)	⑦ふわふわ言葉とちくちく言葉<道徳> (友達に対して進んで温かい言葉をかけようとする。)
【7月】		○一学期の振り返り<生活> (一学期に自分ができるようになったことを伝え合う。)	⑧学級お楽しみ会をしよう<学級活動> (友達と仲良く助け合い、学級生活を楽しくしようとする。)



＜期待される姿＞
仲良く助け合って楽しい学校生活を送り、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする。




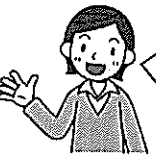
4. 活動例の具体的な内容

① 「じこしょうかい だいさくせん」(生活科 2時間扱い)

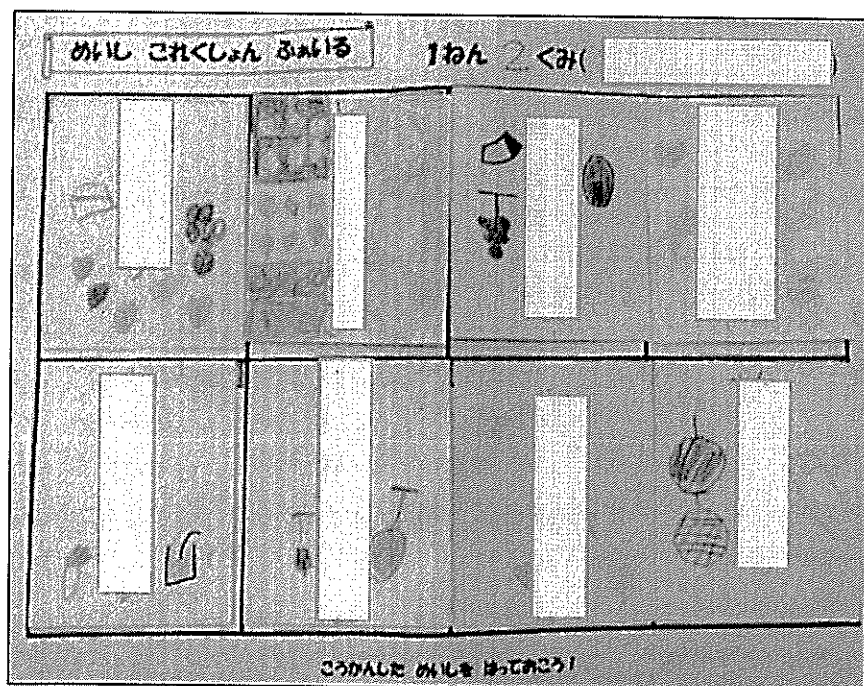
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ゲームを通し、友達の顔と名前を覚えて仲良くなる。 ・友達に自分を知ってもらう。 		
実施時期	4月	接続の視点	安心

時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
事前	<p>1 ○「めいしこれくしょん」を作って、友達と仲良くなるという単元の見通しをもつ。</p> <p>○名刺を交換する枚数分作る。(8枚)</p> <div data-bbox="312 864 858 1099" data-label="Image"> </div> <p>名刺コレクションをつくって、友達と仲良くなろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの意味を説明する。 <div data-bbox="895 734 1417 1003" data-label="Text"> <p>文字はまだ学習していないため、自分の名前は名札を見て書かせる。または、ゴム印等で押印する。 好きな食べ物などはイラストで描かせる。</p> </div>	

本時 (第2時)	導入	<p>○自己紹介ゲームのルールを確認する。</p> <div data-bbox="293 1301 863 1570" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で説明するだけでなく、黒板にイラスト付きの台本を掲示したり、実際にやって見せたりする。 ・はじめと終わりに挨拶をしたり、握手をしたりさせることで、児童同士の関わりを増やせるようにする。
	展開	<p>○自己紹介ゲームをする。</p> <div data-bbox="293 1637 863 2018" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前と好きな物を言う練習をさせた後、自己紹介ゲームを始める。 ・初めに隣同士で名刺を交換することで、活動にスムーズに取り組めるようにする。 ・何も言わずに名刺だけを渡してしまう児童には、名前と好きな物も伝えるように指導する。難しければ挨拶や握手だけでもできるように支援する。 ・名刺が8枚集まった児童から席に座らせる。

展開	<p>○ 集まった名刺を画用紙に貼る。</p>  <p>もらった名刺を画用紙に貼りましょう。名刺の方にのりを塗ると貼りやすいですよ。</p>	<p>・もらった名刺を集めてまとめることで、名刺を無くさないようにする。</p> <p>幼稚園や保育園等でも、のり付けは行っているため、画用紙にはのりで貼らせる。</p> <p>・ICT 機器を使って貼る様子を見せ、イメージを掴ませる。</p>
まとめ	<p>○ 隣同士で互いの「めいしこれくしょん ふぁいる」を見せ合う。【例1】</p>  <p>友達の素敵な字や絵を見せ合ったり、自分と同じところを見付けたりしましょう。</p>	<p>・隣同士で「めいしこれくしょん」を見せることで、より多くの友だちを知ったり、自分との共通点を見付けたりさせる。</p>

<資料等>



【例1】
めいし これくしょん
ふぁいる
(名刺には名前・好きな物のイラスト等をかく。)



【例2】
自己紹介カード
(画用紙に名前・好きな物のイラスト等をかき、首に掛ける。)



(その他の展開例)




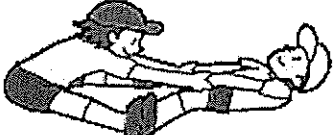


- ・名刺ではなく、画用紙などに名前と好きなものを大きく書いて挨拶し合うこともできる。【例2】
- ・発展として、他学年との関わりも深めるために、休み時間や児童集会の時間に他学年と名刺を交換することもできる。
- ・隣の児童の名前と好きな物を班の人に伝える他己紹介を取り入れると、更に関わりが深まる。

②「たのしく あそぼう」(体育科 5時間扱い)

ねらい	・色々な運動遊びを行い、体を動かす楽しさや集団で遊ぶ心地よさを味わう。		
実施時期	4月	接続の視点	成長

時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
事前	1 ○体育着に着替える練習をする。 ○教室の後ろに2列で並ぶ練習をする。	・脱いだものをたたんだり、赤白帽をかぶったりするなど体育の授業を行う準備を指導する。 ・座席の号車ごとに、教室の後ろへ呼んで、整列の順番を確認する。	







本時 (第2時)	導入	○体育の用意をする。 ・体育着に着替える。 ・教室の後ろに並んで、体育館へ移動する。  <div> 脱いだものをちゃんと袋にしまっているね。 廊下の歩き方は、忍者歩きだったね。 </div>	・椅子が出しっぱなしになっていないか、赤白帽をかぶっているか、体育着をズボンの中に入れているかを確認する。 ・前時のように整列できているか、二人組で手をつないでいるかを確認してから体育館へ移動する。 ・体育館へ入っても、並んだままでいることを伝える。 ・廊下の歩き方を確認する。
	展開	<div>友達と一緒に体を動かして楽しもう</div> ○先生のまねっこ運動をする。(準備運動) ○並びっこごっこをする。 ・教室で並んだ順に2列で並ぶ。 ・合図「前へならえ」の練習をする。 ・腰をおろして休む姿勢を確認する。  <div> かっこよくできているよ。 </div>	・体育館の使い方のルールを説明する。(ギャラリーへは行かない。舞台やマット、跳び箱には勝手に乗らない等。) ・前の人の頭を見てまっすぐ並ぶよう指導する。 ・合図は予令と動令の2つに分けてかける。「前へ(予令)ーならえ(動令)」予令と動令の間に2～3拍おき、児童に次の準備をさせる。 <div> 児童が理解しやすいように、腰をおろして休む姿勢を「おやすみわり」と言う等、幼稚園や保育園等で使用した言葉を活用する。 </div>





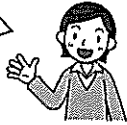

	展開	<p>○並びっこ競争をする。</p>  <p>先生は、体育館の中のどこかにお引越すからね。今度はそこにみんなで並ぶよ。</p> <p>○簡単な体ほぐしの運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだでじゃんけん（教師：子供） ・二人でボートこぎ（二人組） ・なべなべそこぬけ（二人組）  <p>知ってる。やったことある。</p> <p>♪な～べ～な～べ～ そ～こ ぬけ～♪ ぼくは、歌なら聞いたことがある。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の位置を変えて、整列の練習を行う。 ・ぶつからないように、周りを見ながら集まるよう指導する。 <p>児童がこれまでに体験している体ほぐしの運動を取り入れ、自信をもって取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人組では、友達と仲良く優しく運動することを伝える。 <p>（二人でボートこぎ）</p>  <p>（なべなべそこぬけ）</p> 
	まとめ	<p>○先生のまねっこ運動をする。（整理運動）</p> <p>○整列をして教室へ帰る。</p>  <p>仲良く、楽しく運動できましたね。次も楽しい遊びを考えておくれ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育着から普段着に着替えること、体育着をたたんでしまうこと、うがい・手洗いをすることなどを指示する。

事後	3	<p>○体育館で人数を増やして活動できる遊びを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうじゅうがり ・貨物れっしゃ ・かごめかごめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した整列、前へならえ、腰をおろして休む姿勢等の確認は、毎時間行う。 ・音楽をかけ、自然と体が動き楽しく活動できるようにする。
	4・5	<p>○校庭で遊具を使って遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の使い方を説明する。 ・学校内の遊ぶ約束に照らし合わせて説明を行う。 ・安全面と順番を守ることに重点をおく。

③「がっこうたんけんをしよう」(生活科 5時間扱い)

ねらい	・学校施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々について知る。		
実施時期	4月～5月	接続の視点	成長

時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
事前	<p>1・2</p> <p>学校にはどんな部屋があり、どんな人がいるのか、たくさん発見しよう</p> <p>○2年生が1年生に学校を案内する。</p> <p>・職員室、保健室、体育館、学校図書館など、1年生に直接関係のある主要な場所を探検する。</p>  <p>(2年生) ここは、理科室だよ。実験をすることもあるよ。</p>	<p>・事前に1、2年生が学校探検を行うことを職員全員に周知し、協力を得る。</p> <p>2年生と一緒に回ることで、頼りになる上級生がいるという安心感をもてるようにする。</p> <p>・2年生と一緒に回りながら、その他の教室についても、2年生から簡単に教えてもらうようにする。</p>	
	<p>3</p> <p>○探検の振り返りをする。</p>  <p>どこにどんなものがありましたか。見つけたものを発表してください。</p>  <p>保健室に、ベッドがあったよ。</p> <p>ベッドは見てないよ。見たかったな。</p>  <p>○見つけたものの絵を描き、学校マップに貼っていく。</p> <p>○「もっと見たいところ」「もっと知りたいところ」を出し合い、次回は学級ごとに探検することを知る。</p>  <p>音楽室には、ピアノがあるのかな。見てみたいな。</p>	<p>・必要に応じて学級でもう一度行き、確認する。</p> <p>本当だ。ベッドが2つあった。</p>  <p>・絵(画用紙1/4サイズ)を切り取って学校マップに貼ることにより、まだ行っていないところに気付き、他の教室のことも知りたいという意欲につなげる。</p> <p>・児童から出てきた意見を基に、次回1年生のみで探検する場所を決める。</p>	

本時 (第4・5時)	導入	<p>○学校探検の回り方やポイントを確認する。</p>  <p>その場所に、どんなものがあるかを見てきましょう。戻ってきたら、見つけたものを、みんなに教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 廊下は静かに右側を歩くこと、探検する場所のことをよく見て、戻ってきたら発見したことを発表することを伝える。 1年生が学校探検をすることを事前に職員全員に周知し、協力を得る。
	展開	<p>○学校探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探検をする場所は、校長室、音楽室、理科室、ビオトープ、飼育小屋など。  <p>ここは、図書室です。どんな人が働いていますか。</p> <p>本を整理したり、貸し借りをさせたりしてくれる先生がいるよ。</p>   <p>読んだことのない本がたくさんあるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場所で、どんなことをする部屋なのかを簡単に説明しながら、どんなものがあるかを確認する。 <p>児童の知りたいという思いを大切にしながら探検コースを設定し、先生に認められているという自己肯定感を高める。</p>
	まとめ	<p>○探検をして分かったことを発表する。</p> <p>どこにどんなものがありましたか。</p>   <p>飼育小屋には、うさぎがいました。</p> <p>○見つけたものの絵を描き、学校マップに貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめそれぞれの場所の写真をとっておき、挙がったものを提示しながら全体で共有する。 <p>探検して見てきたことを言語のみでまとめるのではなく、絵を描くことで、自信をもって友達に伝えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時同様、絵(画用紙 1/4 サイズ)を切り取りマップに貼っていき、自分たちでマップを作り上げていくという意欲を高める。

<資料等>

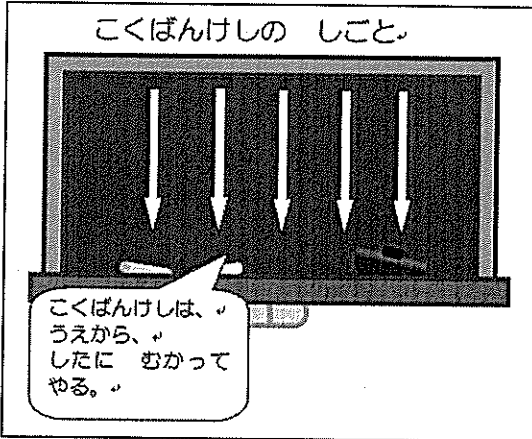



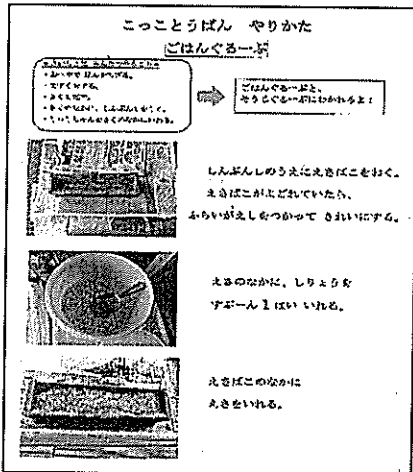
学校マップ 2かい

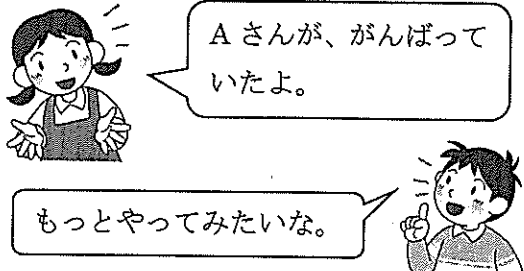
パソコン しつ	かいぎし つ	3-2	3-1	ほけんし つ	ほうそう しつ	しょくい んしつ	こうちょ うしつ	じむしつ
------------	-----------	-----	-----	-----------	------------	-------------	-------------	------


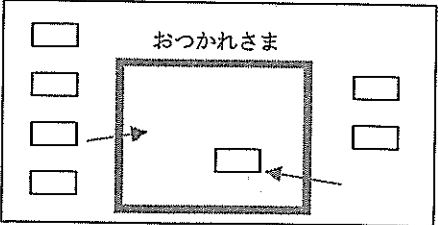
*学校マップは模造紙の大きさと、教室の周りに児童の絵を貼っていく。

④「かかりを きめよう」(学級活動 1時間扱い)

ねらい	・学級の役に立ち、学校生活を気持ちよく過ごせるような係を、これまでの経験をもとに決める。		
実施時期	4月～5月	接続の視点	成長



時数 段階	展 開	指導や 支援
事前	<p>○当番活動の仕事内容を知る。</p> <p>(例) 黒板消し当番用の絵カード</p>  <p>こくばんけしは、 うえから、 したに むかって やる。</p> <p>○当番を順番に体験する。</p> <p>(例) 日直 給食 掃除当番 黒板消し 手紙 など</p> <div data-bbox="287 1579 829 2094">    </div>	<p>接続を踏まえた配慮点</p> <p>仕事内容や方法を分かりやすく伝えるために、絵カード等を利用する。</p> <p>(参考) 保育園で使用している手順書</p>  <p>・当番活動につながる仕事を、意図的に経験させていく。</p> <p>幼稚園や保育園等での当番経験を把握しておく。</p> <p>(例 飼っている生き物の世話、畑の水やり、テーブルふき)</p>





本時 (第1時)	導入	<p>○これまでの当番活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事がしっかりできた。 ・みんなのためになって、楽しかった。 ・難しくてうまくできなかった。 	<p>入学してからの経験を話し合うことで、仕事の意義を知ったり、当番活動への意欲を高めたりする。</p> <p>幼稚園や保育園等での経験も思い出させる。</p>
	展開	<p style="text-align: center;">学級に必要な仕事を考えよう</p> <p>○どんな係があったらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あるとみんなのためになるもの ・楽しくなるもの <p>○入学してからの当番の体験をもとに、必要な係を出していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気 ・並ばせ ・黒板消し ・配達 ・生き物 ・手紙 など <p>○自分の係を決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・係の種類を多くし、少人数で活動させることで、達成感をもたせる。 ・当番的な活動から始めて、少しずつ創意工夫できる係活動を見付けられるようにする。
	終末	<p>○係ごとに集まり、仕事内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良く助け合って、活動できるようにする。 ・係の名前は、児童の考えた名前にするなどして、親しみをもたせる。

事後	<p>○継続して仕事を行う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら、仕事を継続できるようにする。 <p>※お仕事チェック表</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・当番の仕事への取組を価値付けることで、集団への帰属意欲を高める。 <p>幼稚園や保育園等の経験から、自らできることを生かし、自己有用感を高める。</p>
----	--	--

⑤「おんがくりズムあそびで なかよくなろう」(音楽科 1時間扱い)

ねらい	・音楽リズム遊びを通し、音楽の面白さや楽しさ、美しさを感じ表現力を高めるとともに、友達と共感し合う楽しさを味わう。		
実施時期	5月	接続の視点	安心

時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
本時(第1時)	導 入	○机を下げ、広く空いたスペースで「丸くなれ輪になれいちにのさん」の歌に合わせて手を繋いで円になる。	幼稚園や保育園等で経験している歌を歌いながら、楽しく円をつくれるようにする。
	展 開	<p>音楽に合わせて歌ったり、体を動かしたりしてみよう</p> <p>○「握手でこんにちは」に合わせてお散歩し、「こんにちは」のところで出会った友達と挨拶して、さようならをする。</p> <p> 歌の「こんにちは」のところで、近くの友達と二人組になるよ。</p> <p>○リズムに合わせて、教師の真似をする。 例 トン・トン(手拍子) 頭 トン・トン(手拍子) 肩 トトトン(手拍子) 膝 トトトン(手拍子) 口など</p> <p>○曲に合わせて教室内を行進する。 ・「線路はつづくよどこまでも」などの行進しやすい曲に合わせて歩いたり、スキップしたりする。 ・曲が止まったら、その場で好きなポーズをする。 ・次に曲が止まったら、ピアノの高い音や太鼓の数を聞き、その数の友達と手を繋ぎ、その場で座る。</p> <p> 太鼓がなった数をよく聞いて、同じ数の人数で手を繋ぐよ。素早く見つけよう。</p>	<p>・二人組になるところで、相手を見付けられない児童同士で「こんにちは」ができるよう支援する。 ・「ぞうのさんぽ」や「てとてとあいさつ」でもよい。</p> <p>幼稚園や保育園等で経験している音楽リズム遊びを取り入れ、安心して取り組めるようにする。</p> <p>・慣れてきたら、教師の代わりに代表児童が先生役をしたり、テンポを早くしたりする。</p> <p>好きなポーズで見られた幼児期特有の表現の豊かさなどは褒め、評価する。</p> <p>・人数が足りなかったら呼んだり、多かったら他のグループに入ったりするなど、協力し合うよう声をかける。 ・人数を割り切れる数にする、足りないところは教師が入るなどの配慮をする。</p>

本時	<p>○「さんぽ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場で自由に足踏みや手拍子をしながら、楽しく歌う。 <div data-bbox="316 358 845 492"> <p>この曲知ってる。楽しく手拍子してみよう。</p>  </div> <div data-bbox="295 515 837 649">  <p>僕は足踏みしちゃおう。踊りたくなっちゃうな。</p> </div>	<div data-bbox="877 235 1412 504"> <p>1学期は、「さんぽ」など幼稚園や保育園等で歌った経験のある曲を歌うことで、安心感や学級の友達と声を合わせて歌う一体感をもつことができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「さんぽ」の他、資料「幼児と児童がともに歌える歌」の中から選んで歌うようにする。
	<p>○振り返りをする。</p> <div data-bbox="316 750 845 884"> <p>知っている歌がたくさんあって、楽しかったよ。</p>  </div> <div data-bbox="295 907 837 1064">  <p>一緒に歌ったり、体を動かしたりして、新しい友達ができたよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさや、友達との関わりに関する感想を取り上げ、価値付ける。 ・日常生活でも、音楽を活用していくことを伝える。
事後	<p>○朝の時間や授業の導入、気分転換の時間などに随時取り入れていく。</p> <p>○本時で経験した曲や「幼児と児童がともに歌える歌」は、準備のときにかけ、「この曲が終わるまでに準備するよ。」等と声をかけ活用していく。</p>	

<資料>

「幼児と児童がともに歌える歌」

☆ドキドキドン！1年生

(作詞：伊藤アキラ 作曲：桜井 順)

☆はじめの一歩

(作詞：新沢 としひこ 作曲：中川 ひろたか)

☆あいさつのうた

(作詞：東 龍男 作曲：山本 直純)

☆みんなともだち

(作詞：中川ひろたか 作曲：中川ひろたか)

☆さんぽ

(作詞：中川 季枝子 作曲：久石 譲)

☆世界中の子供たちが

(作詞：新沢 としひこ 作曲：中川 ひろたか)

☆ゆうき 100パーセント

(作詞：松井 五郎 作曲：馬飼野 康二)

☆アの子がつくから～あいうえおの歌～

(作詞：阪田 寛夫 作曲：山本 直純)

☆月火水木金土日のうた

(作詞：谷川 俊太郎 作曲：服部 公一)

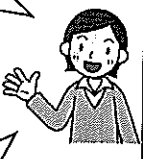

☆カレンダーマーチ

(作詞：井出 隆夫 作曲：増田 和禾子)

⑥「わけを はなそう」(国語科 2時間扱い)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを話した後に、そのわけを話すことができる。 ・言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。 		
実施時期	5月	接続の視点	成長

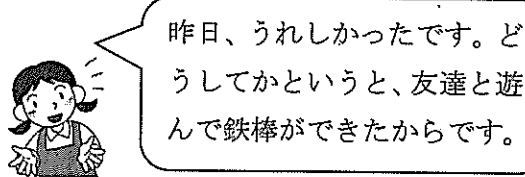
時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
事前	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の絵を見て、女の子がどういう気持ちなのかを考えて発表する。 ○挿絵を見て、「どうしてか」というとを使って、その理由を話す。 ○次時の活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書で、3枚の女の子の絵（笑っている、泣いている、驚いている）を提示する。 	

本時 (第2時)	導入	<p>○自分の体験を思い出す。</p> <p>昨日から今日にかけて、どんなことがありましたか。</p> <p>その中で楽しかったり悲しかったりびっくりしたりしたことはありますか。</p> 	<p>身近にあった出来事を自由に話してよい雰囲気や環境をつくることで、学習意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題が見付けられない児童には、昨日のことを思い起こさせながら、話すことを一緒に見付けるようにする。 ・つぶやきを取り上げて、みんなの前で丁寧語を使って話すようにさせる。 ・「どうして。」というつぶやきが出たら、取り上げる。
	展開	<p>「どうしてか」というとを使って、自分のことを話そう</p> <p>○自分の体験したことを、学んだ話型を使って二人組で話す。</p>  <p>自分の体験したことを「どうしてか」というとを使って、隣の友達に話しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い出させたり、手本を示したりして、活動の見通しがもてるようにする。

展開



○グループ（3～4人）の中で発表する。



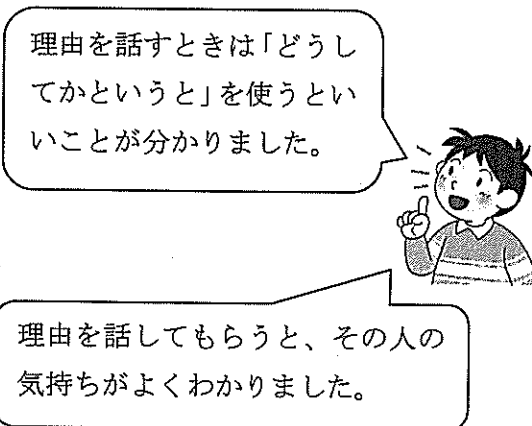
・聞く側は、話し手の目を見て、うなずきながら聞き、最後に短い感想を述べるようにする。

・対話形式ではなく、最初から最後まで一人で話させる。一人で話すときのモデルを示す。

友達の話を持感的に聞けるように促すとともに、話し終わったら拍手をするようにさせ、話せたことに自信をもてるようにする。

まとめ

○学習を振り返る。







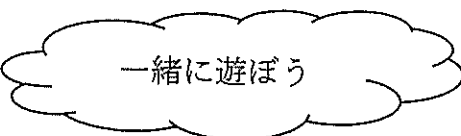




・「どうしてかという」という言葉に続けて理由を述べることで、自分の気持ちを相手に伝えられるのだということを確認する。

・日常生活でも、理由を言えるようにしていくと仲良くできることを伝える。

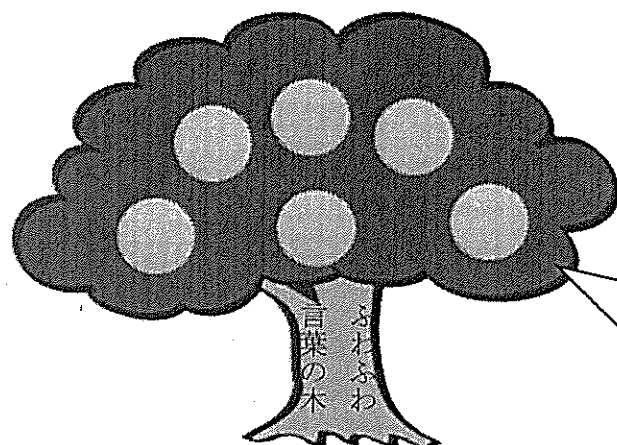
⑦「ふわふわことばと ちくちくことば」(道徳 1時間扱い)

ねらい	<p>・言葉が引き起こす様々な感情に気付き、友達に対して進んで温かい言葉をかけようとする気持ちを育てる。 (主題名「相手の気持ちを思いやる心と言葉」B・思いやり・親切)</p>		
実施時期	6月(ふれあい月間のいじめの未然防止の指導に関連させる)	接続の視点	自立

	段階	展開	指導や支援 接続を踏まえた配慮点
本時	導入	<p>○しょんぼりした表情をしている子の絵を見て、気付いたことを話し合う。</p>  <p>どうしてこんな顔をしているのかな。</p>  <p>・叱られたのかな。 ・けんかをしたのかもしれない。</p>	<p>・絵を見ることで、自分の体験も踏まえて考えることができるようにする。</p> <p>入学してから、自分自身が同じようにしょんぼりした顔をしたり、悲しい顔の友達を見たりした経験を想起させる。</p>
	展開	<p>ふわふわ言葉やちくちく言葉を言うとどんな気持ちになるか考えよう</p> <p>○自分が言われ、心が傷付いた言葉(ちくちく言葉)を出し合う。</p> <p>ばか。あほ。 入れてやらない。 ちび。おまえ。 など。</p>  <p>言葉でも相手を傷つけてしまうと、いじめにつながることがありますね。</p>  <p>○自分が言われて、心があたたかくなった言葉(ふわふわ言葉)を出し合う。</p>  <p>ありがとう。おはよう。 上手だね。 など</p>	<p>・トゲトゲの出ている吹き出しの絵を掲示し、言葉のイメージが浮かびやすいようにする。</p>  <p>・自由に発言をさせるが、聞き慣れていない児童が嫌な気分になったり、調子に乗る児童が出たりしないように配慮する。</p> <p>・ふわふわの柔らかそうな吹き出しの絵を掲示し、言葉のイメージが浮かびやすいようにする。</p> 

<p>本時</p>	<p>○ロールプレイをする。</p> <p>例：隣同士でペアになって行う。</p> <p>Aが鉛筆を落とす。Bが拾う。</p> <p>AがBに「ありがとう。」と言う。</p> <p>その後、どんな気持ちになったかを話し合う。</p> <div data-bbox="300 481 837 884">  <p>「ありがとう。」と言われて、どうでしたか。</p> <p>うれしかったよ。 また拾ってあげたいなと思ったよ。 心があたたかくなったよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を考えて、どのような場面設定がよいかを考える。 ・「ありがとう」を言うことにより、言った方も言われた方も双方の気持ちがよくなることを感じる。 <div data-bbox="885 436 1412 638"> <p>友達と温かい言葉交わすことで、楽しくて気持ちよい学校生活が送れることに気付かせる。</p> </div>
	<p>○今までの生活を振り返り、これからの友達との関わり方を考える。</p> <div data-bbox="295 1086 837 1512">  <p>「ありがとう」と言われると、うれしいね。これからはみんなに言われてうれしい言葉を使っていこう。</p> <p>嫌な言葉を言われるとつらいから、言わないようにしましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを継続して指導するために、カードに書かせてしばらく掲示をするというやり方もある。 <p>例：ハートの中にふわふわ言葉を貼り、外にチクチク言葉を貼る。</p>

<資料等>










〈事後の活動例〉

木に見立てた掲示物に、ふわふわ言葉をカードに書き、少しずつ増やしていく。

⑧「がっきゅうおたのしみかいをしよう」(学級活動 3時間扱い)

ねらい	・友達と仲良く助け合い、学級生活を楽しくしようとする態度を育てる。		
実施時期	7月	接続の視点	自立

時数 段階	展 開	指導や 支援	接続を踏まえた配慮点
事前	<p>1</p> <p>○1学期を振り返り、学級みんなが楽しめそうな「お楽しみ会」の計画を立てる。</p>  <p>1学期は、みんなのできるゲームを計画しましょう。</p> <p>例) フルーツバスケット、ハンカチ落とし、爆弾ゲーム、いすとりゲーム、四つ角、ドンジャンケン、王様ジャンケン、伝言ゲーム など</p> <p>○「お楽しみ会」に向けて各自の役割を決める。 例：司会、はじめ・おわりの言葉、ルール説明、飾り・プログラム作り、チームリーダー・・・等</p>  <p>輪飾りや花で、教室をきれいに飾りたいね。</p> <p>係のみんなと一緒にルールを説明しようよ。</p> 	<p>・みんなが楽しめそうな内容を検討するように伝える。</p> <p>・学期毎にジャンルと場所を決めておく、意見がまとまりやすい。</p> <p>例) ゲーム、出し物、スポーツ等</p> <p>・写真、動画等を示すと「お楽しみ会」のイメージがもちやすい。</p> <p>出された意見については、共通ルールを話し合いの中で確認し、みんなが安心し、期待感をもてるようにする。</p> <p>・室内で行う場合、「走らない」などの安全に配慮したルールも確認しておく。</p> <p>・一人一役は担えるように、事前に児童の人数分の役割を用意しておく。</p>	
	<p>2</p> <p>○前時に決めた役割ごとに、お楽しみ会に向けた準備を進める。</p> <p>例) 言葉の練習、出し物の練習、飾り・プログラム作り・・・等</p>	<p>・何をしたらよいのか戸惑っている児童には、具体的にどんなことをしたらよいのか例を示す。</p> <p>自分が一役担っているという有用感を感じながら意欲的に活動できるようにする。</p>	

本時 (第3時)	導入	<p>○めあての確認をする。</p> <p>みんなで学級お楽しみ会を成功させよう</p> <p> 今日のために、みんなで準備してきましたね。楽しい会にするために、ルールをしっかりと守って活動しましょう。</p> <p>○場の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮したルール、全員で楽しむためのルールを、活動前に担任から伝え再確認しておく。 <p>例) 走らない</p> <p>アウトになった場合は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた場所に座って待つ。 ・友達を応援する。 ・「負ける」等の言葉は使わない。
	展開	<p>○学級お楽しみ会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの言葉 ・みんなで遊ぶ 例：フルーツバスケット いすとりゲーム ・活動の振り返り <p> ○○さんのルールの説明が分かりやすくて良かったです。</p> <p>○○さんが最後まで頑張っていたのがすごいと思いました。</p> <p></p> <p>・おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各係の児童が自らの仕事を確実にこなすように言葉かけをする。 ・ルールが分からなかったり、参加できなかったりする児童に言葉かけをする。 ・人権尊重の視点から不適切な行為は、適時指導する。 ・児童の様子を記録に取り、終末の助言に生かす。 <p>振り返りでは、友達のよかったところを発表し合い、和やかな雰囲気で作られるようにする。</p>
	終末	<p>○終末の助言を聞く。</p> <p> クラス全員で力を合わせて素敵な会が開けましたね。これからも力を合わせて、楽しいことがいっぱい学級にしていきたいと思います。</p> <p>○後片付けをする。</p>	<p>学級全体のよさを評価する言葉を伝え、自信をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後片付けは他人任せでなく全員で取り組み、自分のことだけでなく、みんなのためにも進んで行動しようとする自立心を養う。
	事後	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に楽しめる遊びとして、雨の日のクラス遊び等に活用する。 	<p>どの児童も自然と友達の輪に入り、友達と集団遊びを楽しめるようにする。</p>

5. 幼児教育から小学校教育への接続を円滑にするために

発達段階に合わせ、幼稚園・保育園・認定こども園での学びや体験を生かしながら、小学校入学直後の児童の学習意欲や集中力を高める活用事例を示します。

手遊び

- ・気持ちを切り替えたり、合間の時間にやったりすることで集中力を増すことができる。また児童の集中が切れたときにも活用できる。

「トントン頭、トントン肩、トントンひざ」、「グー、ピタ、ピン、サッ」、「背すじはピン」
「ずいずいずっころばし」、「茶つぼ」、「アルプス一万尺」、「おちゃらかほい」
「でんでらにゅうば」、「幸せなら手をたたこう（手をたたこう部分を変えてみる）」など

絵カード

- ・音声や文字だけの指示が通りにくい際に、イラストや写真、時計などの絵を入れ込み、指示の補助に活用する。

「座り方」、「声のものさし」、「静かにする」、「発言は手を挙げてから」、「朝や帰りの支度」
「時計の絵に終了時刻を示す」、「時間割表示に教科書の写真を入れ込む」など

ほめる

- ・小さなことや当たり前のことでもほめるようにすることで、安心感と自信をもたせることができる。

「花丸」、「花丸にチョウ、葉などを付ける」、「ハンコ」、「シール」
「ずばらしい、すごい、よかったよ、がんばったね、などの言葉かけを使い分ける」など

歌・踊り

- ・周りの友達と一緒に体を動かすことで、一体感を高めることができる。音楽や体育の時間にも取り入れることができる。

「もうじゅうがりにいこうよ」、「じゃんけん列車」、「花いちもんめ」など

読み聞かせ

- ・朝や帰りの会の前などに継続して行うことで、一日の始まりの気持ちを高めたり、一日が終わるという切り替えをしたりすることができる。合間の時間に児童同士ですることもできる。
「日本昔話」シリーズ、「わんぱくだん」シリーズ、など

平成28年度 武蔵野スタートカリキュラム作成委員会

〈委員長〉伊野 啓子（第三小学校校長） 〈副委員長〉坂井 由利子（本宿小学校副校長）

第一小学校	小泉 知子	第二小学校	武田 ちさと	第三小学校	シルバ 智子
第四小学校	江見 みどり	第五小学校	田中 なお子	大野田小学校	駒谷 昌宏
境南小学校	佐藤 美穂子	本宿小学校	佐藤 有紀	千川小学校	白井 佑佳
井之頭小学校	鈴木 瑞穂	関前南小学校	岡村 幸子	桜野小学校	塚本 聡子

〈作成協力者〉

武蔵野東第二幼稚園	黒崎 知子	武蔵野相愛幼稚園	蓮見 茉莉
吉祥寺保育園	金井 香保里	北町保育園	高木 清子

〈担当指導主事〉 本多 泰介

発行 武蔵野市教育委員会 指導課（平成29年3月）